

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.162

2013/05/08

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会



## 多くの来訪者と保全の両立を どのように調整するか

京都私立中学高等学校理科研究会「春の観察会」(13/04/29)

新緑が鮮やかになるとともに森への来訪者が続いています。他府県からの自然観察団体・視察団体などを制限しつつも受け入れています。今冬の雪融けが早かったため、観察コース沿いのササユリをはじめとする発芽が早かった。来訪者に実生を踏み付けられるのを防ぐため例年より早く4月下旬から、踏み付け防止のための標識ラベルを設置する作業に追われました。おびただしく発生したササユリの実生は、これまでの会員や西浅



ササユリ実生踏み付け防止ラベル設置(13/04/26)



昨年ネット設置後ササユリを喰われた地点の  
ネット設置作業・今年は？(13/05/02)

井中学校陸上部の生徒諸君や協力団体に遺伝子のことも考慮して播種してもらったものです。昨秋播種した15,000粒は来春発芽することになります。その作業が終わらぬうちに、花芽が伸張しシカの食害に遭いだし、金網設置やネット設置の作業がつづく。他方で雪融け直後からイノシシに荒らされている南部湿原のミツガシワを保全するためネット設置につづいて行っていたトタン板設置が5月2日にやっと完了しました。ミツガシワ保全のための最初のネット設置から、3年目に入りました。湿原内には再生しつつあるミツガシワが群生するようになってきました。この調子で食害防止の効果が続けば2年後には1990年代のミツガシワの大群落が戻って来るはずです。こうした作業の時期は、その年々の気象条件で大きく変わるので予定がちにくく、現地の観察を緻密に行って、臨機応変に対応しなくてはならず人出の確保が課題になります。





ササユリ調査区のラベルと金網設置 (13/05/04)



来年は開花する株 (13/05/04)

2003 年から草刈を始め 2005 年から調査を行っている「ササユリ調査区」(「尾根道」沿い・上左画像)では、来年咲くだろうと予想される株(上右画像)が多数育っています。



完成した南部湿原の猪囲い・景観としては無粋 (13/05/02)



再生ミツガシワの群生する様子 (13/05/02)



1960年代に資材置き場として造成した平坦地 (13/05/05)

2005年落果した  
ブナの苗2011年に落果した  
ブナの苗

2005 年のブナの豊作時に採種し育種を続けているブナの苗がかなり大きくなった。そのうち 3 本は「やまかど・森の楽舎」の東屋北側に植栽している。残り 100 株ほどあるもののうち永原・塩津小学校の本年度保全活動をしてくれる子どもたちの数(約 50 株)を森に植栽する。植栽場所は、1960 年代に「資材置き場」として造成された第 2 分岐下の平坦地である。ここではアカマツ枯れも目立つため枯れたものを伐採し地づくりは完了した。昨秋コナラも採種し、発芽観察と植栽(天然更新試験地)を考え育種中です。成果は先のことですが地道にやりましょう。



コナラの種子採取 (12/11/03)



コナラの発芽 (13/05/06)